



遠くに川と同じ名まえの橋。渡れば熊本駅。



向こうにあるのは大きな病院だね。



今も電車が走っているよ。



はじめは慶長六年(1601)にかけられたのでこの名前。



昔は木の橋、今は鉄の橋。

だいこうばし
大甲橋



しらかわばし
白川橋



しんよつぎばし
新代継橋



やすみばし
安巳橋



ちょうろくばし
長六橋



★むかしの写真は、九州記念病院岡山洋二理事長のコレクションからご提供いただきました。

長六橋（ちょうろくばし）

加藤清正が熊本の城下町をつくった時代、慶長6（1601）年にかけてだったのでこの名がついたとされています。南から薩摩街道（現在の国道3号線）を来ると、熊本城下町の玄関にあたります。江戸時代には、白川を渡る橋は長六橋しかありませんでした。昭和2（1937）年に完成した鉄の橋が長年親しまれてきましたが、洪水を防ぐために川幅を広くする必要があり、またたくさん車の車が安全に通ることができるように、平成3（1991）年の現在のコンクリートの橋に架け替えられました。

安巳橋（やすみばし）

江戸時代の終わりごろの安政4（1857）年、干支が巳（み＝へび）の年に架けられたので、安巳橋とつけられました。江戸の藩邸にいた人たちが引き揚げてきて、新しい市街地「新屋敷」がつくられたため、白川を渡る橋が必要になったのです。さらに市街地が広がると、上流に明午橋が架けられます。明治40（1907）年から大正9（1920）年には、橋の上を蒸気機関車が引く軽便鉄道が通っていました。いま私たちが渡っているのは、昭和43（1968）年に架けられた鉄の橋です。

白川橋（しらかわばし）

明治4（1871）年に、当時の政府によって、個人で道路や橋を造り料金を取ることが認められました。これにより、それまで渡し舟で渡っていたところに橋が架けられました。白川橋（当時は思案橋）もその一つで、ほかにも泰平橋（当時は明辰橋）、子飼橋、世安橋などが架けられました。現在の白川橋は昭和35（1960）年に架けられたものです。

新代継橋（しんよつぎばし）

明治34（1901）年に、現在の城東町にあった県立病院（現在の熊本大学病院）が本荘町に引っ越します。このため新しく架けられたのが新代継橋で、「病院橋」とも呼ばれていました。代継橋は渡し舟から有料の橋へと替ったもので、橋のたもとに代継宮があったため（現在は龍田に移転）、その名が付きました。どちらの橋も当時より少し下流に移っています。現在の橋は新代継橋が昭和34（1959）年、代継橋が平成17（2005）年に架けられました。

大甲橋（たいこうばし）

大正13（1924）年、甲子（きのえね）の年にできたので、大甲橋と名づけられました。阪神甲子園球場と同じ年です。現在も橋の上を電車が走っていますが、大甲橋は電車を通すために、最初から丈夫な鉄筋コンクリートの橋として造られました。現在の橋は昭和40（1965）年に架け替えられたもので、その後使いやすいように歩道部分が広げられたりしています。